

小美玉市の歴史を知ろう 46

疫病退散!! 茅の輪くぐり

平家の盛衰を描いた『平家物語』の一節「祇園精舎の鐘の聲 諸行無常の響きあり…」を覚えていた方も多いでしょう。冒頭部分の祇園精舎とは、仏教発祥の地、古代インドにあった寺院のことです。その守護神である「牛頭天王」は、疫病を流行らせる神とされています。また、日本各地に伝わる説話「蘇民将来」の武塔神と同じ神として扱われました。

蘇民将来の説話

蘇民将来の説話を紹介します。武塔神は旅の途中でどこか泊まれるところがないかと宿を探していました。裕福な弟の巨旦将来は断り、貧しい兄の蘇民将来は粗末ながらもてなしました。何年か経った後、神は、蘇民将来のところに立ち寄り、恩返しにと

こう言って茅でつくった輪を授けました。「私はスサノオである。今後、疫病が流行れば、この茅の輪を腰につけなさい。そうすれば、疫病から免れるであろう」

この故事にならって、夏を迎える六月の晦日に多くの神社で行われる「茅の輪くぐり」は、参道に注連縄を張り、茅で編んだ輪を正面から8字を描くように三回くぐることで、半年間に溜まった穢れを落とし、残りの半年を無事に過ごせることを願うものです。また、疫病除けの意味もあります。

素戔神社

素戔鳴尊をお祀りする小川素戔神社では、例年旧暦六月晦日に茅の輪くぐりの神事を行っています。今年の旧暦六月晦日は八月十八日にあた

り、神社において午後五時から茅輪祭が執り行われます。八月十日前後には、参道に茅の輪が設置される予定です。新型コロナウイルスの終息を祈願して、参拝してはいかがでしょうか。その際にはマスクなどの感染症対策を忘れずに。



素戔神社の茅の輪くぐり

【語句解説】

スサノオ
日本神話に登場する神。素戔鳴尊などと表記され、祇園精舎の守護神の牛頭天王と習合しています。
晦日
旧暦でその月の末日。



素戔鳴尊と牛頭天王の習合神
(仏像図彙 元禄3年)

問い合わせ

生涯学習課（生涯学習センターコスモス内） ☎ 0299-26-9111